

令和6年6月10日

令和5年度 特別の教育課程の実施状況等について

栃木県		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
足利市立富田小学校	足利市教育委員会	公立

1. 特別の教育課程の内容

(1) 特別の教育課程の概要

本市全小学校において、平成15年度より取り組んできた英会話学習の内容と外国語活動・外国語科の内容を関連づけた独自の年間指導計画を作成し、「話すこと」「聞くこと」に特化した指導を行うことで、英語によるコミュニケーション能力の育成を図る。

必要となる教育課程の基準の特例については、「教育課程特例校編成の基本方針等について」を参照。

2. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

- 計画通り実施できている
- ・一部、計画通り実施できていない
- ・ほとんど計画通り実施できていない

(2) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- 実施している
- ・実施していない

(3) 自校における評価

- ・第1学年から月1回英会話学習を継続して実施することで、児童は抵抗なく学習に取り組み、あいさつや自己紹介などの基本的な表現に慣れ親しんでいる。
- ・ALTやEAAと授業以外で交流したり、校内に掲示された英語表記での掲示物を日常的に見たりすることで、第1学年から英語に慣れ親しみ、言語や文化に対する興味・関心が高まっている。
- ・日常生活の中でALTやEAAに進んであいさつをしたり話しかけたりする児童が増えてきている。
- ・今後も第1学年から英会話学習を実施することにより、児童の興味・関心をより一層高め、コミュニケーション能力を育成していきたいと考える。

(4) 学校関係者による評価

<児童>

- ・英語であいさつをしたり短い会話をしたりすることができるようになってきた。
- ・季節や天気、曜日を聞かれたとき、英語で答えることができるようになった。
- ・歌を歌ったり、歌に合わせて踊ったりするのが楽しい。
- ・ビンゴゲームやカルタゲームなど、ゲームをしながら英語を覚えるのが楽しい。
- ・ALTやEAAの先生の発音を聞いて、少し内容が分かるようになってきた。
- ・インタビューゲームで話す人をさがしているとき、ALTやEAAの先生が話しかけてくれてうれしかった。
- ・発音をよく聞いて真似をしたら、英語がうまく話せるようになってきた。
- ・ALTと一緒に遊んでいたとき英語で短い会話ができ、うれしかった。
- ・新しい単語を覚えたり発音したりするのが難しいが、少しずつがんばりたい。

<保護者アンケート>

- ・「学校で行っている英会話学習（外国語、外国語活動も含む）により英語のコミュニケーション能力が育成されている」との保護者アンケートの回答は、半数が肯定的な回答であった。

<保護者>

- ・英会話学習に楽しく取り組んでおり、英語に対して関心が高まっているように思う。
- ・低学年では耳で覚えることが重要なので、1年生から英会話学習を行っていくことに期待している。発音も小さいうちから練習した方が、よくなるし、コミュニケーション能力も向上すると思う。
- ・子どもが英会話学習の内容について家で話をしていることがある。小さい頃から英語を身近なものと感じることは大切だと思う。
- ・英語に触れながら歌を歌ったり、ゲームを通して遊び感覚で英語を身に付けたりできるのが良い。
- ・低学年は、月1回でも英会話の学習を行うことで、簡単な単語やあいさつの仕方を覚えることができていると思う。10までの数も英語で数えられるようになった。

3. 実施の効果及び課題

- ・1年生から英会話の学習に取り組んできているので、楽しんで活動している児童が多い。
- ・児童から「英語が話せるようになってうれしい。」「いろいろな単語を覚えることが楽しい。」という感想があった。低学年から英会話学習に取り組む慣れ親しんでいる効果の表れである。

- ・音楽に合わせて体を動かしたり、ゲームを行ったりすることで、子どもたちの興味関心が高い。
- ・大部分の児童は英語に対し慣れ親しんでおり、コミュニケーション能力の向上が見られる。
- ・高学年では発表の際、タブレットPCでスライドショーを作り、英語で発表する場面も見られた。短い発表でもスライドショーがあることで視覚的に伝える情報が増え、発表が苦手な児童も意欲的に取り組むことができた。
- ・苦手意識をもつ児童もおり、「発音に自信がない。」「英語を聞き取るのが難しい。」などの理由を挙げている。回数を重ねれば慣れてくる傾向にあるので、個別に声掛けをしたり見守ったりする等、支援を行っていききたい。
- ・高学年になると、外国語が教科として行われるようになる。文字の読み書きを負担に感じたりする児童も見られる。今までの積み重ねにより、個人差も大きくなってきている。中学校へのつながりを考えた指導の難しさも感じている。
- ・保護者アンケートでは「学校で行っている英会話学習（外国語、外国語活動も含む）により英語のコミュニケーション能力が育成されている」との問いに対し、「分からない」と回答した保護者が2割ほどいた。学校での様子が家庭に伝わっていないと考えられる。

4. 課題の改善のための取組の方向性

- ・児童の興味・関心を高め、コミュニケーション能力の向上を図ることができるような活動の工夫
- ・小中9年間のつながりをふまえた段階的な指導内容、指導法の工夫・改善。
- ・ALTやEAAとの積極的な情報交換や打合せ時間の確保。
- ・ICT機器の活用。
- ・英会話学習や英語チャレンジデーの活動に関する保護者への周知。